

若者とユース・ワーカーのはたらき 継続的な支援が若者を変えていく

「くまもと市・あそ若者サポートステーション」の開所にあたり、1960年代から全国的に青少年の労働問題に取り組み、支援を続けられていた坂口順治さんの講演が行われました。(2面に関連記事)

若者を取り巻く環境の変化

若者の働く意識を育て、支援することを目的とした「地域若者サポートステーション」が、なぜ必要とされているのでしょうか。

福祉の意味も変化し、若者の意識も、若者を取り巻く社会状況も変化してきました。働かざる者食うべからずの頃とは違い、働かなくても食べられる社会です。そして、働くことを通して人生の幸せを求める若者との間に、「労働観」のズレが生じています。かつて産業中心主義の時代、若者の労働力は石炭や石油エネルギーの代替物として重宝がられ、若者の労働力がなくては産業が復興しない時代でした。しかし、今では技術革新やロボット化が進み、若者の労働力の価値は下落。工業や製造業などの第二次産業よりもサービスや情報産業が増加するという産業構造の変化もあり、若者は軽視され続けています。

社会構造の変化もあります。人間性尊重の思想が普及した結果、自己主張なしで生きられない時代です。私たち大人が育ってきた社会状況とは大きく異なるのです。これをふまえ、若者の就労支援には、新しい工夫が必要だと言えます。

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

YMCA

K U M A M O T O

NEWS

June 2012
vol.481

6



ファミリーピクニック(吉無田高原 緑の村)

- C O N T E N T S**
- ① 若者とユース・ワーカーのはたらき
 - ② くまもと市・あそ若者ステーション開所 2012年度会員総会
 - ③ 就労継続支援事業所開所／ながみねYMCA開館式 アガベNo.75「もう一つの生き方」
REPORT 西日本地区リーダー研修会／YMCA学院スポーツデイ
 - ④ Life 第47回 テーマ「若者の自立」 菊池哲平さん②
Topics ながみねファミリー YMCA／みなみ・むさし歌声広場
- 中面** Y Kidsニュース 夏はキャンプだ！

就労支援の考え方の変化

90年代、イギリスのブレア政権のもとで、地域社会の中で若者のサポートや指導、あるいは治療する「コネクションズ」という組織ができました。そこで標語としたのが「Welfare to Work(労働へ向けた福祉)」です。私たちが70年代の経済成長期に立ち上げた「勤労青少年ホーム」は、若者を過酷な労働から一時的に解放することが目的でした。それは「Welfare from Work(労働から福祉へ)」です。「from」を「to」に変えていくために、日本では2000年に社会事業法が改定。人に与えるという慈善事業から自立支援へと変化しました。また、小泉内閣の時、文部科学省・厚生労働省・経済産業省・内閣府が中心となり、官民一体となった「若者自立・挑戦戦略会議」を提案。その中で成功しているのが、「サポステ」の現在の広がりです。

私は、人を育てることが一番難しいと実感しています。2005年から「若者自立塾創出推進事業」が開始され、集団生活の中で就労へとつなげる基本的能力を身に付けることができるようになりました。来るのは、ニートやひきこもりの若者たち。50人ほどにインタビューした結果、自立に向けて成功した共通点は「自分の存在を認められたことが自覚できた人」でした。その存在の認められ方は、資格免許の証明書に自分の名前を確認した時などいろいろあるケースがあります。



「サポステ」を活かすために必要なキーワードが2つあります。まずは「福祉と教育のマッチング」。慈悲的な福祉と指導的な教育のマッチングが大切です。それには、時間単位で話を聞く力やセルフリングだけでなく、生活全般の面倒を見る「個別的対応の機能」が必要です。そして、多彩な専門分野を持つ複数のワーカーが連携し、様々な形で若者の才能を広げる継続的ケアを行うことがサポステに求められる役割だと思っています。

坂口 順治さん

1932年生まれ。文学博士、元立教大学教授、前平安女学院大学学長。1960年代、東京深川の木場に「勤労青少年センター」を同志とともに建設以来、「勤労青少年福祉法」の成立や労働省の「婦人少年問題審議会」などに関わる。現在、若者自立塾専門委員会座長、NPO法人教育研究所主催。

他者によって自己が照らされる

「サポステ」では、3年間に卒業した約60%が就労しました。立ち直りを果たした若者が多くいることを誇りに思う一方、数字では語りきれない、一人ひとりにとってかけがえのない経験により、人生の転換が図れたと思っています。

「サポステ」を活かすために必要なキーワードが2つあります。まずは「福祉と教育のマッチング」。慈悲的な福祉と指導的な教育のマッチングが大切です。それには、時間単位で話を聞く力やセルフリングだけでなく、生活全般の面倒を見る「個別的対応の機能」が必要です。そして、多彩な専門分野を持つ複数のワーカーが連携し、様々な形で若者の才能を広げる継続的ケアを行うことがサポステに求められる役割だと思っています。

わたしと聖句

ローマの信徒への手紙8章19節
被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。

一体、何を聴いて来たのか。

30年以上も昔、日雇労働に出た頃、破格の高給を示す「福岡県／発電所」の求人票に目を遣る私に、傍らの見知らぬ労働者が囁いた。「行ったらあかんで。ヒバク、ヒバクで使い捨て」。この経験を契機として、原子力発電とい

う不穏な存在を知るに至った。原発は、被造物の保全という神の御旨に反すると心得て来たつもりであった。

だが、それも所詮、ひとつの心得でしかなかったのだと認めざるを得ない。神の創造の業の完全、取るうと思えば取れるが決して取ってはならぬもののあることさらには私という人間の欲によって被造物が「うめいて」(22節)いるその声を、私は、どれだけ真剣に聴こうとして来たか。

遠く70年代の初め、神学者J.B.カ

ブルは問うた。「今からではもう遅すぎるか?」。今日、もう遅すぎるのかも。しれない。だが、それでも責任放棄は許されぬ。私を含め、人は今こそ、深い悔改めを以て、「心を尽し、精神を尽し、思いを尽して」神の御旨を聴かねばならない。被造物は今、この時神の御旨を聴き、行ずる者たちの現れを切に待ち望んでいるからである。

日本基督教団 大牟田正山町教会
梅崎 浩二

若者の自立を応援 地域「サポステ」開所

5月11日(金)、中央YMCAに「くまもと市・あそ若者サポートセンター」が開所しました。県内では4番目のサポートセンターで、熊本市北・西・南区、合志市、大津町、菊陽町、阿蘇郡市を対象に、青少年の職業的自立へ向けて支援していきます。熊本YMCAでは、発達障がい支援、通信制高等学校、専門学校と、長年にわたって教育に関わってきました。そこで、成人後、卒業後の就職で苦勞する若者たちにも支援を広げようと、1年前から開所が検討されてきました。今回は、熊本市の推薦、熊本県の同意、厚生労働省の認可を得て開所。「これまでの多くのサポステは福祉関係で運営されてきましたが、今回は学校法人が設置するサポステです。教育の側面からサポートすることで、福祉と教育が連携した支援を実現できると思います」と総括コーディネーターの中島修さん。キャリアアカウンセラー、スクールカウンセラーがスタッフに加わり、相談窓口のほか、スキルアップ講座、各種セミナーなどが開催される予定です。



2012年度会員総会開催 ☺ 与えられた使命を果たすべく、より公益的な活動を



2012年度熊本YMCA会員総会が、5月25日(金)中央YMCAで開催され、137名の会員・職員が出席しました。一年間の活動を振り返るとともに、「共に生きる社会づくり3カ年計画」の最終年度にあたり、世界や地域の抱える様々な課題に取り組んでいくことを確認しました。

総会司会をウエルネス事業部リーダーの児玉一薫さんと林田秀平さんが務め、第1部礼拝では、日本福音ルーテル神水教会牧師の角本浩さんが「主にあつて共に生きる」と題し、奨励されました(詳細は下段)。

続く第2部では、10年く40年の節目を迎えた会員へ感謝状と記念品が授与されました。また、設立10周年の熊本みなみワイズメンズクラブ、5年にわたり地域の人たちが集う機会を提供してきた

「歌声広場わいわい」の活動に対し、感謝状が贈られました。さらに、熊本YMCA名誉理事の江藤安純さんに、100歳を記念し、感謝状が手渡されました。江藤さんは、熊本YMCA設立発起人会の一人で、設立から現在まで64年にわたる、唯一の会員。江藤さんは壇上で、「100歳を機に感謝状を受けることになるのは驚き千万です」と述べられ、会場から大きな拍手が起きました。

第3部総会では、会長の吉本貞一郎さんが議長を務め、進行されました。スクリーンに映し出された数々の写真によつて、2011年度の事業報告が行われ、2012年度の運営方針については、総主事の堤弘雄さんより、「今年度の公益財団法人移行を機に、与えられた使命を果たすべき役割を再確認し運営にあたりたい」と述べられました。提案の中で、熊本市との間で防災協定を結び、行政と協働して人々の命を守る働きを強めること、阿蘇YMCA60周年にあたり、募金を行い、キャビンの改修等の施設整備を行うこと、東日本大震災復興支援活動を継続することなどが強調されました。

その後、決算報告と監査報告、2012年度予算案など各議案についても審議され、いずれも承認されました。



神の祝福を求めて 会員総会奨励

日本福音ルーテル神水教会

牧師 角本 浩さん



私が神学生だった頃、ルーテル教会以外の教会礼拝に出席し、報告するカリキュラムがありました。特色ある活動をし、成長している教会を探すと、宣教開始後20年ほどなのに100名を超す人々が集まるバプテスト教会がありました。訪ねると、礼拝のスタイルは大胆で、大人も子どももはつらつとしています。私は牧師先生にお話をうかがいました。

先生は、「伝道を始める際、私は神様に、イエス様が宣教を始められた時の弟子と同じ数である12人を教会にお与えくださいと祈りました。礼拝に十数人が集まると、今度は40人を祈りました」。40は聖書によく出てくる数です。出エジプトの旅は40年。主イエスが荒れ野でお過ごしになった期間、復活後に弟子たちと過ごされた期間も40日です。先生は、「次は、ルカ福音書に、イエスが「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってください」ように、収穫の主の願いなさい」と言つて送り出された人の数である72人。そして、失われた一匹を求めるという思いで99人。次にペンテコステの時、心を合わせて祈った120人を祈りました」とおっしゃいました。

私が教会を訪れた時の数は120人でした。先生は、「私は聖書にちなみ、神の祝福があるようにと、神の祝

福を現す数を祈りました。もし、100人、1000人というような人間的な思いであつたなら、受け入れられなかったかもしれません。しかし、求めるのは数ではなく、神の祝福なのです」と語られました。多くを教えられた時でした。

本日の礼拝に与えられている御言葉は、ローマの信徒への手紙12章15節「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」です。多くの人との連帯を求める言葉です。その連帯の中にある祝福を求めなさいと聞こえます。ひとり息子の死を悲しむやもめ、ラザロの死を悲しむ人々、会堂長の幼い娘が死んだと泣き悲しむ人々：福音書に登場する多くの泣く人たちのそばに、いつも主イエスはおられました。御言葉が求めるのは、ただの連帯でも、ただの絆でもありません。そこに主がおられ、そこにある祝福を追い求めるためです。そして、そこで主と出会った者は、きつともう一つの御言葉を聞きます。「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる(ルカによる福音書6章21節)」。

私は、YMCAの働きの目指すところは、上からの祝福だと信じています。新たな日々へと進むYMCAの働きの上に、神様からの導き、祝福が豊かになるようにと願います。

アガヘ No.75

総主事
堤 弘雄

もう一つの生き方

世の中、いろんな生き方がありますが、「もう一つの生き方」という生き方を昔からYMCAは社会に提案し続けてきました。それは、これまでの自己中心的な生き方を止めて、他者と共に生きる生き方へと転換すること、自分のためだけに生きるのではなく、社会的に弱い立場の人々や支援を必要とする人々と共に生きることを社会と個人へ呼びかける内容でした。

東日本大震災は普通に日常生活を送っていた多くの人々が、その日常を奪われてしまうという大変辛く悲しい出来事でした。この出来事は普通に生活をしている私たちが、一瞬で被災者になりうることを教えてくれるものでもありました。「絆」という言葉が使われるようになりましたが、この言葉には、被災者との絆の他に、私たちの日常生活の中での隣近所との付き合い、人との出会いなど、人とのご縁を大切にしたいという気持ちが含まれています。また、力を失いつつあるコミュニティを強めようという願いがあるように思います。

原子力発電所の事故以来、節電が叫ばれていますが、あわせて地球全体の安全の確保とエネルギー資源の枯渇のことを考える時が来ています。生活者が主体となって未来や地球と共存するために必要な生活のあり方について考え、自然エネルギー(再生可能エネルギー)の地産地消、自給自足を含めたエネルギーシフトを進めると同時に、私たち個人のライフスタイルの変化が求められています。

隣人やコミュニティとの関係、新しいライフスタイルのあり方など、私たちにはそのような意味で「もう一つの生き方」が求められているように思います。



15年にわたり、発達障がいのある子どもたちの支援を行ってきた熊本YMCA。一般就労が困難な人々を対象に、雇用契約を結んで就労への移行支援を行い、生活を守ることを目指した「就労継続支援A型事業所WELL・B(ウエルビー)」をオープンしました。5月19日(土)に行われた開所式では、社会福祉法人熊本YMCA福祉会理事長の堤弘雄さんが「利用者主体の施設として運営していきたいと思っています」と述べ、尽力をいただいた方々へ感謝の意を伝えました。また、熊本県精神障害者社会復帰施設協議会会長の甲斐利雄さんの「障がいのある方の社会参加の場が誕生したことを喜び、発展

を祈ります」との祝辞が紹介されました。さらに、WELL・Bの開所に際し、アドバイスをもらったNPO法人自立応援団就労支援センターくまもと理事長で、中央YMCA運営委員の福島貴志さんは「働く一人ひとりが主役であり、光り輝くリーダーになれた時に初めて、本当の意味でYMCAが行う就労支援事業になるでしょう」と話し、高村昂代さんがスタッフを代表して、「多くの方に来ていただき、楽しく仕事をしています」と笑顔で挨拶。責任者の藤川登士郎さんは、「すでに学生たちの利用も多く、自然な形でノーマライゼーションが進んでいることがうれいですね」と話しました。



5月7日(月)にリニューアルオープンしたながみねファミリーYMCA。5月20日(日)には、地域の人々、リニューアルにあたって尽力された関係者を招き、感謝の気持ちと今後の活動に向けた決意を伝える開館式が行われました。当日は日本福音ルーテル健康教会牧師の小泉基さんが、「当館が地域の防災の拠点であることを伝え、子どもたちには信頼できる大人た

ちがいる安心できる場所であると伝えましょう」と奨励されました。続く記念式典では、公益財団法人熊本YMCA理事長の吉本貞一郎さんが、「開館から25年が経ち、多くの子どもたちが集う施設となったことに感謝をしながら、今後も活動を進めていくことを誓います」と挨拶。建物業主をはじめ、設計・施工に携わった企業の代表に感謝状が贈呈されました。また、熊本市議会議員でひがしワイズメンズクラブの紫垣正仁さんから「地域との関わりを忘れず、熊本YMCA全体のモデルとなるよう、活動を発信していきましょう」と祝辞もありました。館長の中村賢次郎さんは「素晴らしい施設に、魂を注ぎ込んでいきます」と述べ、オゾンでのプール水浄化システムなど新しい設備と今後の取組みについてアピール。式典後は、運営委員の案内で施設見学会も行われ、プールの水に触れるなど、出席者は熱心に館内を見学していました。

地域に愛される拠点を目指して
ながみねファミリーYMCA開館式

YMCA学院恒例のスポーツデイが開催され、日本語科の留学生や高等学校の生徒を含む555名が参加しました。この大会は、生涯スポーツ科の学生が中心となって運営。当日はフットサル、ソフトバレーボール、バスケットボールの3種目に分かれて競技が行われ、学生同士で熱戦が繰り広げられました。スポーツを通して、学科を越えて交流する機会となりました。

学生主体のスポーツ大会
YMCA学院スポーツデイ

日時/5月24日(木)
場所/中央YMCA体育館・熊本県立総合体育館



熊本から参加した5名のリーダーは、研修を通して仲間ができて、絆も深まり、また一つ成長できたようです。

中央YMCA 平本沙音娘

西日本地区のリーダーが集い研修会
日程/5月3日(木)~5日(土)
場所/福岡県立少年自然の家 玄海の家
西日本地区で活躍するYMCAのリーダー46名が集い、研修会が行われました。テーマは「自信・We can do it!」。基調講演では、子どもへのアプローチについて、一方的なコミュニケーションではなく、子どもの反応・行動を待つことの大切さを学びました。また、グループ活動では、お互いのよいところを探し、ほめ合うことで自信へとつながっていききました。

Life

第47回

“いのち”“生活”
“いきがい”をテーマに
したメッセージ。



熊本大学教育学部
特別支援教育学科准教授
臨床心理士

菊池 哲平さん ②

早い段階で支援が必要な学生を見つけ、 状態を改善していく支援が求められています

大学や専門学校は義務教育ではなく、「卒業させなければいけない」わけではありませんが、少子化の中で学生を確保するには、できる限り門戸を広げて受入体制を整える必要があります。一方で、資格取得を前提とする養成機関では、質の保証のため、講義などは最低限のレベルを保たなくてはなりません。それら条件のもとで、学生支援を行うには講義中の様子や態度などから、支援が必要と思われる学生を早い段階で見つけることが重要です。また、教員側は、レポートの文字数は「○文字以内」ではなく「△文字以上○文字以内」というような明確な指示を出す、教員間で出席の取り方などの方針を一貫させるといった工夫も求められます。遅刻や居眠り、服装の変化などから学生の状況を把握しておくことも大切です。

さらに、周囲からの叱責などが重なって二次障がいをもつ場合や失敗体験の蓄積などからうつ傾向がある場合には、より強力な支援体制が必要です。保護者と連絡を取り、本人告知が必要とされるケースもあります。メンタルヘルス面で求められるのは、医師や臨床心理士など、専門家チームなどによる直接・間接支援の積極的展開です。周囲の支援の仕方、学生たちの状態は変わっていくからです。

夏期国際理解プログラム

熊本YMCAは、国籍や民族の違いを超え、互いに認め合うことのできる多文化共生社会の担い手育成を目指し、国際理解プログラムを実施しています。北部タイ山岳少数民族の村を訪ねる「タイ・ユース・ワークキャンプ」、世界の青少年と平和について語り合う「国際青少年平和セミナー」に参加して、多様な価値観にふれ、新たな自分を探してみませんか。

■タイ・ユース・ワークキャンプ

期 間：8月21日(火)～30日(木)9泊10日

場 所：タイ チェンライ・チェンマイ

費 用：180,000円

内 容：ワーク(整備作業)、タイ山岳少数民族の子どもたちとの交流など

【事前説明会】※お電話でご予約ください。

①6月15日(金)18:30～20:00 ②6月23日(土)10:00～11:30

■国際青少年平和セミナー

期 間：8月4日(土)～6日(月)

場 所：広島YMCA・広島平和公園

費 用：50,000円(熊本～広島の交通費含む)

内 容：平和構築や国際協力にまつわる講義やワークショップなど

主 催：広島YMCA

※青少年対象の参加費助成制度があります。お問い合わせください。

お問合せ 熊本YMCA ICR TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877
E-mail icr@kumamoto-ymca.org

TOPICS

地域YMCAにまつわる人・モノ・場所などを順番にご紹介します。

リニューアルした会館

ながみね

ながみねファミリー YMCAは、5月7日(月)にリニューアルオープンし、5月20日(日)に開館式を迎えることができました。

リニューアルにあたってご尽力いただいた皆様や長年YMCAの活動をご理解いただき、お支えいただいた地域の皆様、プログラム参加者の皆様、ボランティアの皆様など多くの皆様にご来館いただき、これからの活動への期待を感じることができました。これからも地域に根ざした活動を推進していきたいと思っております。



ながみねファミリー YMCA 秋寄光輝

歌声広場わいわい

みなみ



2009年12月より開催していましたが、「歌声広場わいわい」が、地域のニーズに対応し、もっと多くの方々に参加していただこうと、昼間の10時45分～12時45分へ開催時間を変更しました。新しい出会いの場として、たくさんの方々がみなみYMCAのコミュニティールームに集っていただければと願っています。

ぜひ一度、歌声を聞きにお越しください。お待ちしております。毎月第4水曜日、お一人¥500です。詳しくはお問い合わせください。

みなみYMCA 厚地洋子

歌声広場わいわい

むさし



思い出の歌を歌おう！ むさしYMCAの歌声広場わいわいは、毎月第3水曜日の午後2時から40名を越す地域の皆さんにお越しいただいています。ギターとピアノの伴奏で、季節に合った懐かしの歌謡曲、童謡、唱歌を歌っています。ソングリーダーと共に大きな声を出して歌えば、身も心もすっきりリフレッシュ！ 休憩時間はコミュニティールームに場所を移して、お茶とお菓子で楽しく歓談しながら交流の時を持ちます。歌好きの方もそうでない方も一度覗いてみませんか？

むさしYMCA 大宅登貴子

Kumamoto YMCA Network

中央YMCA	☎096-353-6391	ながみねファミリーYMCA	☎096-385-0676
YMCA学院	☎096-353-6393	むさしYMCA	☎096-248-6334
YMCA学院高等学校	☎096-353-6391	阿蘇YMCA	☎0967-35-0124
本部事務局・ICR	☎096-353-6397	赤水保育園	☎0967-35-0024
みなみYMCA	☎096-378-9370	尾ヶ石保育園	☎0967-32-0213
上通YMCA	☎096-352-2344	永草保育園	☎0967-32-0810
東部YMCA	☎096-382-6661	黒川保育園	☎0967-34-0402
水前寺幼稚園	☎096-362-4141	リフレスおおむた	☎0944-58-7777



思いやり 誠実さ 責任感 尊敬心 キャラクター・ディベロップメント推進中

体育英語幼稚園こりすクラスのお友だちは、4月の入園から2カ月間でお友だちとの関わりがとて増えてきました。毎回プログラムで行進を行っています。ある日、お友だちと一緒に手をつなごうと自ら手を差し出し、仲良く行進する光景を目にしました。「自分」と「相手」という関係を認識し、お友だちと関わる楽しさをプログラムの中で体験できていることをうれしく思います。1年間のプログラムを通して、お友だちを思いやる気持ちや大切に思う気持ちを育てていけるよう願っています。(中央 平本)



【基本聖句】喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマの信徒への手紙12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会
ウェルネス活動

地球環境の保全
ボランティア活動

生涯学習の推進
平和な世界

■ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp

■メールマガジン登録

www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

